

八戸工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	日本文化史概論(5013)	
科目基礎情報							
科目番号		0079		科目区分	一般 / 必修		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		産業システム工学専攻マテリアル・バイオ工学コース		対象学年	専2		
開設期		後期		週時間数	2		
教科書/教材		教員配布資料					
担当教員		中村 泰朗					
到達目標							
・ 絵画・工芸・建築といった文化財学的観点から、日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解する。 ・ 日本文化について、時代ごとの違いを理解できるようになる。 ・ 日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できるようになる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解し説明できる。		日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できる。		日本文化の歴史とモノづくり技術の発展を理解できない。		
評価項目2	日本文化について、時代ごとの違いを理解し説明できる。		日本文化について、時代ごとの違いを理解できる。		日本文化について、時代ごとの違いを理解できない。		
評価項目3	日本文化について、世界の文化と関連付けて理解し説明できる。		日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できる。		日本文化について、世界の文化と関連付けて理解できない。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 DP1							
教育方法等							
概要	・ 文献、絵画、建築など様々な史料を多角的に検討することで、日本と世界の文化を正しく理解する。 ・ モノづくりの歴史を学ぶことで、文化史と技術史を学際的に理解する。 ・ 日本の文化と世界の文化の関連性を学ぶことで、異文化理解の重要性を理解する。						
授業の進め方・方法	・ 配布プリントおよびスライドを中心とした講義形式を採用。 ・ 評価は到達度試験によって行い、100点満点中60点以上を合格とする。						
注意点	・ 日本および世界の歴史や文化について、日ごろから関心を持つようにすること。 ・ 近隣の博物館や歴史的名所を訪れることによって、授業内容の復習と確認を行うこと。						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス		今日における日本と世界の文化の多様性について、基本的な情報を整理する。		
		2週	古代の文化①		古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		3週	古代の文化②		古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		4週	古代の文化③		古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		5週	古代の文化④		古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		6週	古代の文化⑤		古代における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		7週	中世の文化①		中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		8週	中世の文化②		中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
	4thQ	9週	中世の文化③		中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		10週	中世の文化④		中世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		11週	近世の文化①		近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		12週	近世の文化②		近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		13週	近世の文化③		近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		14週	近世の文化④		近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		15週	近世の文化⑤		近世における日本の文化について、諸外国の文化と関連付けて理解する。		
		16週	到達度試験 まとめ				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的 分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。		4	

	工学基礎	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者倫理 (知的財産、 法令順守、 持続可能性 を含む)およ び技術史	技術者を目指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それ ぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握 している。	4	
				科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任 を説明できる。	4	
				科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与 した姿を通し、技術者の使命・重要性について説明できる。	4	
		グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	グローバリ ゼーション ・異文化多 文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる 寛容さが必要であることを認識している。	4	
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	4	
評価割合						
			到達度試験	合計		
総合評価割合			100	100		
基礎的能力			100	100		